「全国地域ブランド総選挙」に畜大生×十勝和牛プロジェクト 消費拡大考える

「十勝和牛」のビジネスプランを考えよう―。地域ブランドを活用したPR方法などを考える「全国地域ブランド総選挙」に、帯広畜産大学畜産学部と「十勝和牛プロジェクト」がペアを組んで参加している。

―総選挙」は、地域ブランドを適切に保護する「地域団体商標制度」の普及や活用促進を目的に特許庁が主催する。2017年度から「九州」「東海・北陸」など地域限定で開催してきたが、今年は初めて対象エリアを全国に広げて開催。北海道唯一の参加となる十勝和牛のほか、「岡山白桃」（全農岡山県本部と岡山大）、「沖縄そば」（沖縄生麺協同組合と具志川商業高）など15チームが参加。9月下旬のオンラインのオリエンテーションから各チームの取り組みがスタートした。

参加する帯広畜産大の学生は、山本千尋さん（農業経済学ユニット4年）、丹野奈那さん（同ユニット3年）、阿部紗奈さん（大学院畜産学研究科博士前期課程・家畜生産学コース1年）、齋藤慶輝さん（家畜生産学ユニット4年）。ペアを組む十勝和牛プロジェクトは十勝和牛振興協議会やホクレンなどで構成している。

現在、学生によるインスタグラム（登録名・十勝和牛@全国地域ブランド総選挙）発信や、十勝和牛を扱う精肉店への電話調査、消費者への認知調査などを進めている。活動のポイントは十勝和牛の「十勝住民への認知」「十勝の食材とコラボレーション」などで、今後の十勝和牛の消費拡大に向けた貴重なアイデアとなりそうだ。

12月には、発信内容やビジネスアイデアをもとに審査が行われ、決勝戦進出チームが決まる。来年2月の決勝戦には9チームが参加し、プレゼンテーションで各賞の受賞チームを決定する。

オンラインのオリエンテーションに臨む畜大生ら（9月、帯広畜産大学提供）

インスタグラムの最初の投稿。十勝和牛を扱う店の紹介、肉の等級に関する説明など幅広い内容を発信している